第１学年国語科学習指導案

１　単元名　こえにだしてよもう　「くじらぐも」

２　指導観

こんな子どもだから

○　子ども達は，「はなのみち」「おむすびころりん」「大きなかぶ」などの物語文の学習を通して，挿し絵を活用しながらあらすじをつかんだり，登場人物の気持ちを考えたりすることができるようになってきた。そこで，本単元においてはさらに，挿し絵と言葉をつなぎながら，音読や動作化を通して，人物の姿や様子をとらえ，その人物の気持ちを想像する読みの力を付けたい。

○　子ども達は，「大きなかぶ」の学習で，同じ動作を繰り返しながら登場人物が増えていく中で，みんなで力を合わせると，とうとうかぶがぬけたという「協力することのよさ」を，楽しみながら読むことができた。本単元においては，くものくじらが子ども達と一緒に楽しい時間を過ごし，元気よく帰っていくことから，「仲良くなる楽しさ」を味わいながら読むことができるようにしたい。

こんな単元でこんな読みの力を

○　本教材は，くものくじらが子ども達と一緒に楽しい時間を過ごすことで心が通じ合い，仲良くなっていく楽しさをえがいた物語である。主人公のくじらがしたことの順に場面が展開されている。また，学校，体育の授業，空という身近な世界の中で，自分たちと同じ一年生が活躍するということで，共感しながら読むことができると考える。くじらと子ども達との心のつながり，仲良くなる楽しさを想像しながら読み深めさせたい。

○　指導にあたっては，まず，題名と冒頭から読みのめあて「くものくじらは，なにをするためにあらわれたのかな」を生み出す。次に，くじらがしたことを，挿し絵とつなぎながら順をおってとらえ，読みのめあての答えを書きまとめさせる。読み深めでは，助詞「が」「も」の使い方の違いや，繰り返しの言葉に着目させ，音読，動作化をすることで，くじらや子ども達の姿や様子をとらえさせる。また，くじらや子ども達の気持ちを想像し，ワークシートに書き込むことで，くじらや子ども達の思いの高まりが表現されていることに気付かせる。これは，叙述をもとに想像豊かに読む力の育成につながると考える。

○　くじらが子ども達と一緒に楽しい時間を過ごし，仲良くなっていくことを，毎時間「きょうのくじらさんはね・・・」に書きまとめ，自分の考えをおうちの人に伝えることで，人物の行動とその時の気持ちをまとめ，内容の大体を捉える力を培っていく。

中学校での課題を受けて

■　改善の観点（Ａ－１）

○　挿し絵と言葉をつないだり，「ここへおいでよう。」「さ，およぐぞ。」などくじらと子ども達の会話を音読，動作化することによって，くじらの思いを読み取らせる。さらに，「もっとたかく。もっとたかく。」「天までとどけ一，二，三。」「どこまでも」などの繰り返す言葉に着目し，仲良くなりたいくじらの思いの高まりに気付かせる。

○　「くじらが」「くじらは」「くじらも」など主語を表す言葉に着目し，まねから自身への行動，意志を伴う喜びの様子へと変化していくくじらの気持ちを読み取らせる。

■　改善の観点（Ｂ－１）

○　挿し絵をもとに，場面を順序よく読み取り，あらすじを捉えられるワークシートを工夫し，くじらぐもが何をするために現れたのか考えさせる。

■　改善の観点（Ｃ－１）

○　「うみのほうへ，むらのほうへ，まちのほうへ。」では，子ども達は何を見たのか，どんな会話をしたのかなど書かれていない部分を，自分の経験とつないで想像をふくらませながら，自分の言葉で表現させる。

○　読みのまとめでは，もう一度冒頭と結びをつないで考えさせ，くじらは子ども達と仲良くなりたくてあらわれたということを確かめ，この後くじらはどうしたのだろうと想像をふくらませながら，くものくじらにお手紙を書かせる。

こんな子どもに（単元目標）

○　挿し絵と言葉をつなぎながら，音読や動作化を通して人物の様子を捉え，その気持ちを想像しながら，運動場にあらわれたくじらぐもと子ども達が仲良くなるまでの心の交流を，読み取ることができるようにする。

○　くものくじらはみんなと仲良くなりたくてあらわれたということに気付き，仲良くなったくじらは，この後どうしたのだろうと想像をふくらませ，「くじらぐも」の続きの話を手紙として書きまとめることができるようにする。

中学校へどうつながっていくのか

○　助詞「が」や「も」の違いや，言葉の繰り返しの働きに気付くことは，中学年の「言葉の違いは心の違い」，高学年の「文脈の中の固有の意味」へとつながり，中１での，「文脈の中における語句の意味を正確にとらえる」学習につながる。また，登場人物になって，音読，動作化することは，想像をふくらませ，登場人物の気持ちになって，自分の読みを創っていく子どもの育成につながる。

３　学習計画（全１１時間）

次	時	学習のねらい	主な学習活動と指導上の留意点
めあてをもつ／	1	○　題名と冒頭をつないで，読みのめあてをつくる。 ＜読みのめあて＞ くものくじらは，なにをするためにあらわれたのだろう。	○　雲を見た経験とつなぎながら，題名について話し合う。 **(B-1)**「くじらのかたちをしているのかな。」「くじらぐもがどんなことをするのかな。」とお話への関心を高める。
読みをもつ／	2・3	○　読みのめあてをもとに，全文を読み，挿絵をもとに順序よく場面をとらえ，読みの答えをまとめる。 ＜読みの方向＞ くものくじらは，子どもたちとなかよくなりたくて，あらわれた。そして，たいそうをしたり，空へみんなをさそったり，みんなと空をおよいだりした。	○　教師の範読を中心に登場人物，時，場所，出来事を押さえながら読み通す。 **(B-1)** ワークシートのさし絵に順番をつけさせながら，出来事とお話の筋を押さえ，読みのめあての答えを方向付ける。
計画を立てる／	4・5	○　読み確かめていく計画を立てる。 読み確かめること まねをしているくじらの様子や気持ち さそうくじらの様子や気持ち おうえんするくじらの様子や気持ち 空をおよぐくじらの様子や気持ち さよならをするくじらの様子や気持ち	○　各場面でくじらの行動に着目し，もっと詳しくくじらの様子や気持ちを深めたいところや疑問を位置付ける。 予想される疑問の例 ・くじらはどうして子どもたちのまねをするのかな。 ・くじらはどうして子どもたちをさそったのかな。 ・くじらはどうして子どもたちをおうえんしたのかな。 ・くじらと子どもたちは，どんなきもちで空をおよいだのかな。 ・くじらはどうしてげんきよくかえっていったのかな。
読みを深め確かめる／	6・7・8・9・10	○　計画に沿って読み深め，確かめていく。 （１）本時場面のくじらの様子を音読，動作化し確認する。 （２）くじらの様子や，そのときの気持ちを読み深める。 （３）本時のまとめをする。「きょうのくじらさんはね…。」の続きを書く。	○　場面ごとにくじらの様子を表す言葉に着目し，くじらの気持ちを読み深める。 **(A-1)** 叙述をもとに，音読，動作化などの表現活動を通して，言葉には意味があることに気付かせる。 ・「が」と「も」に着目させ，まねすることで，自分の方へ気持ちを向かせたいくじらの気持ちを読み取らせる。 ・「よびました」「こたえました」「ここにおいでよう」に着目させ，空へ誘うくじらの気持ちを読み取らせる。 ・「もっとたかく。もっとたかく。」の繰り返しの言葉から，一生懸命応援するくじらの気持ちを読み取らせる。 ・「さあ，およぐぞ。」「くじらはあおい空を」「げんきいっぱい」の言葉に着目させ，子ども達をのせ張り切っているくじらの様子と，子ども達との心の結びつきをを読み取らせる。 **(C-1)**「うみのほうへ，むらのほうへ，まちのほうへ。」では，子ども達は何を見たのか，どんな会話をしたのかなど書かれていない部分を，自分の経験とつないで想像をふくらまさせながら，自分の言葉で表現させる。 ・さし絵のくじらの表情や「くじらはげんきよく，あおい空のなかへかえっていきました。」の叙述から，子ども達と過ごした時間に満足しているくじらの気持ちを読み取らせる。 ○　読み確かめたことを，自分の言葉でまとめる。 **(C-1)** 毎時間の終わりに，「きょうのくじらさんはね…。」に書きまとめさせる。
まとめる／	11	○　学習をふり返り，読みのまとめをする。 ○　続きの話を想像し，くじらへの手紙の形式で書きまとめる。	○　冒頭と結びをつないで，「くじらは何をしに来たのか」を考えさせ，子ども達と仲良くなりたくてあられたことを確認する。 **(C-1)** この後，くじらはどうしたのだろうと想像をふくらませ，続きの話を手紙の形式で表現させる。

第６時

４　本時　（６／１１）

５　本時の目標

○　みんなと仲良くなりたくて，みんなのまねをするくじらの様子や気持ちを読み深めることができる。

６　本時学習における授業改善の観点

○　（Ａ－１ ）場面の様子に気づき，想像を広げながら書かれている通りに読む力。

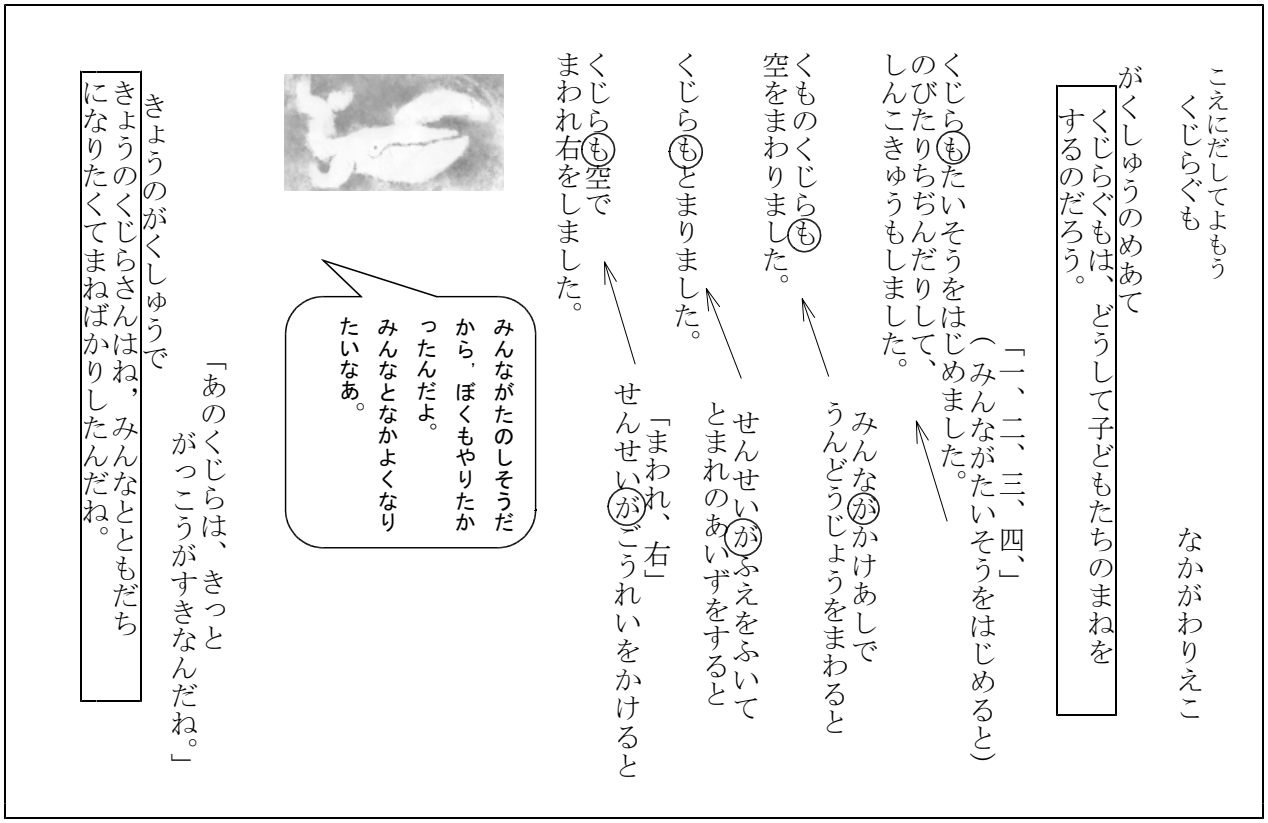
・　「みんなが」の「が」と「くじらも」の「も」に着目させ，音読や動作化を通して，自分の方へ子ども達の気持ちを向かせたいというくじらの様子や気持ちを読み取らせる。

７　本時指導についての基本的な考え方

○　本時は子ども達のまねをするくじらの様子を読み取り，子ども達と仲良くなりたいくじらの気持ちを読み深める場面である。子ども達が体操している時にあらわれたくものくじらはこども達のまねばかりをする。それは自分の方へ子どもたちの気持ちを引きつけ，子ども達と友達になりたいからである。そんなくじらぐもの様子や気持ちを「みんなが」と「くじらも」の叙述を読み取らせ，動作化や会話のやりとりを通して想像を広げながら，読み深めさせたい。

○　指導にあたっては，まず，教科書の叙述や挿し絵をもとにくじらの様子を話し合わせる。その際，みんな「が」とくじら「も」に着目させ，ワークシートに書き込ませることにより，くじらが子ども達のまねばかりしていることを押さえる。次に本時のめあてである「くじらはどうして子どもたちのまねをするのだろう。」と問いかけ，子ども達と仲良くなりたくて自分の方へ気を向けたかったくじらの気持ちを，動作化をしたり吹き出しに書いたりさせることによってとらえさせたい。さらに，「あのくじらはきっとがっこうがすきなんだね。」という子ども達の言葉から，みんなと仲良くなりたくて学校にあらわれたくじらの気持ちをとらえさせたい。

８　板書図



9　展開

学習活動と内容	指導上の留意点
1　前時の学習を想起し，本時学習のめあてをつかむ （1）挿し絵を見ながら，お話の順序を振り返り，本時は「まねっこくじら」の場面であることを知る。 （2）本時のめあてを知る。	○　教室の側面に掲示した，挿し絵から前時までの学習を振り返らせる。 ○　くじらと子ども達の挿し絵を黒板の上下に貼り，位置関係を確認させる。
学習のめあて くじらぐもはどうして子どもたちのまねをするのだろう。	
2　本時場面を音読する。 3　子ども達のまねをするくじらの様子や気持ちを話し合い，どうして 子ども達のまねをするのか考える。	○　くじらがしたこと，子ども達がしたことを見つけながら読むことを知らせる。
（A－1） （1）　くじらがしたことを見つける。 ＜体操 → 空をまわる→ とまる → まわれ右＞ （2）　ワークシートの○の中に入る言葉を考えて書く。 （3）　役割分担して動作化 する。 （　教師役，子ども役，くじら役　） （4）　くじらになって，吹き出しに書く。 （5）　吹き出しに書いたことを発表する。	（A－1） ○　くじらと子ども達が同じことをしていることに気付かせる。 ○　教科書の叙述を基に，みんな「が」とくじら「も」に着目させワークシートに書かせることで，その働きを押さえる ○　くじらと子ども達に分かれて音読させ，子ども達とくじらぐもの様子を対比させる。 ○　動作化することによってまねばかりしていることを押さえる。 ・まず，教師が子ども役になって，「どうしてまねするの？」と問いかけ，くじらの気持ちを引き出す。 ・くじら役の子どもに，問いかけの答えを考えて言わせる。 （2，３人交代する。） ○　なぜまねをしたのかをくじらぐもの気持ちを想像し，吹き出しに書かせる。 ○　どうしてまねばかりしたのか，くじらの気持ちを押さえる。
4　「きっとがっこうがすきなんだね。」の子どもの会話文を音読し，くじらの気持ちを確かめる。 5　本時のまとめと次時学習の確認をする。 きょうの学習で きょうのくじらさんはね，みんなのまねばかりしたんだよ。それはね，みんなとなかよくなりたいからだよ。	○　子ども達の「がっこうがすきなんだね。」という言葉から，くじらの気持ちが　子ども達に伝わったことを押さえる。 ○　読み取ったことをもとに「きょうのくじらさんはね,」の後に続く言葉を考えさせ，おうちの人に伝えるように書かせる。

第７時

４　本時　（　７／１１　）

５　本時の目標

○　みんなと仲良くなりたくて，一生懸命に子ども達を空に誘うくじらの様子や気持ちを読み深めることができる。

６　本時学習における授業改善の観点

○　（Ａ－１）場面の様子に気付き，想像を広げながら書かれている通りに読む力

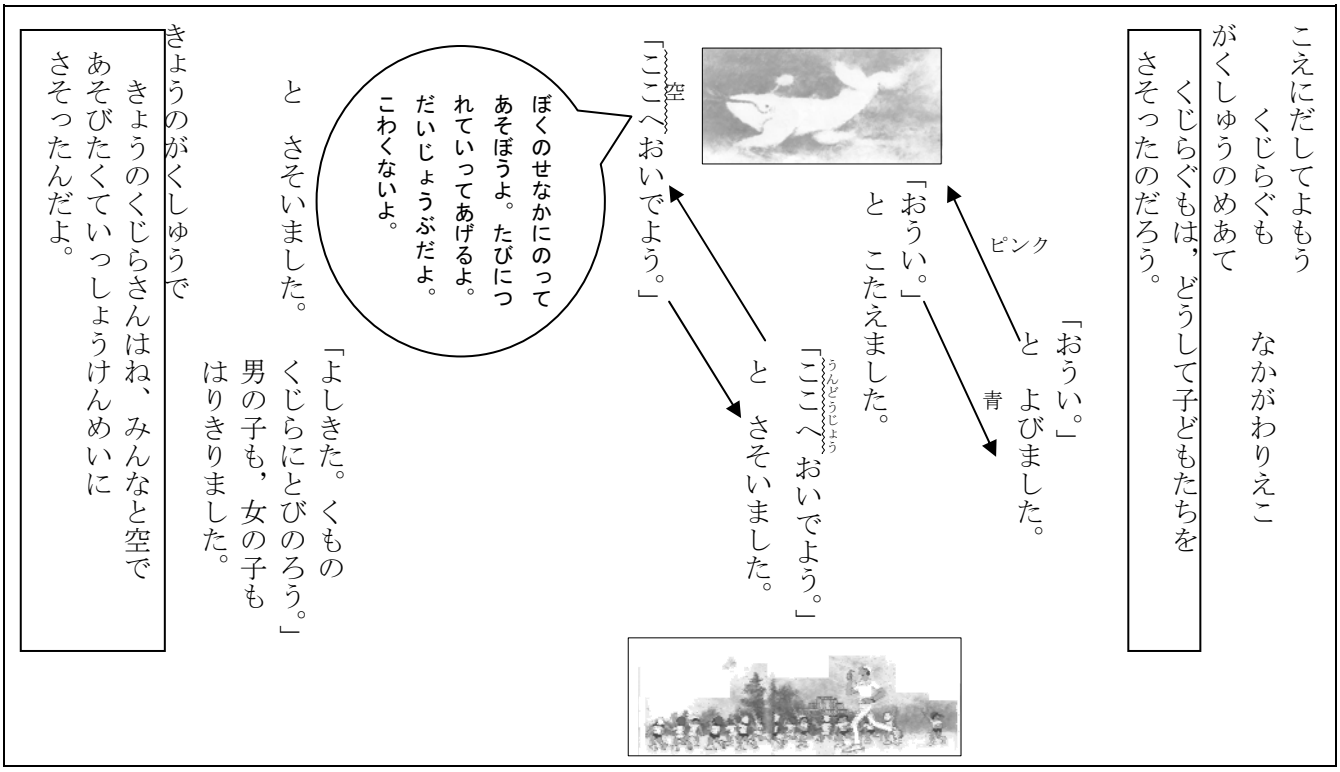
・　「ここへおいでよう。」と誘っているくじらの言葉に着目させ，音読や動作化を通して，ただのまねではなく自分から誘っているくじらの様子や気持ちを読み取らせる。

７　本時指導についての基本的な考え方

○　本時は，子ども達を空へ一生懸命に誘うくじらの様子を読み取り，子ども達と仲良くなりたいくじらの気持ちを読み深める場面である。「ここへおいでよう。」と誘っているくじらの言葉を，子ども達の「ここへおいでよう。」の言葉と比べることによって，同じ言葉でも場所や気持ちが違うことを読み取らせることができる。また，挿し絵をもとに，「ここへおいでよう。」の後に続く言葉を想像させることで，くじらの気持ちを読み深めることができる。

○　指導にあたっては，子ども達を「ここへおいでよう。」と空へ誘うくじらの様子を，挿し絵を手がかりに音読や動作化をしながら，応答をしていることや「ここ」の場所の違いに気付かせることで子ども達のまねではないことを確かめる。その後，くじらになって，子ども達を誘う会話のやりとりをさせたり，吹き出しに書いたりすることを通して，くじらが子ども達と仲良くなりたくて一生懸命に空に誘っていることを捉えさせたい。そして，子ども達が「よしきた。」とはりきる様子から，くじらと子ども達のつながりが，前の場面よりもさらに深まったことに気付かせたい。

８　板書図



９　展開

学習活動と内容	指導上の留意点
1　前時の学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。 (1)　前時の「まねっこくじら」の場を想起し，本時は挿し絵から「おさそいくじら」の場面であることを知る。 (2)　本時のめあてを知る。	○　前時の学習のあしあとや挿し絵などから，前時までの学習をふりかえらせる。 ○　くじらと子ども達の挿し絵を黒板の上下に貼り，位置関係を確認させる。
学習のめあて くじらぐもは，どうして子どもたちをさそったのだろう。	
2　本時場面を音読する。 3　子ども達を空へ誘うくじらの様子や気持ちを話し合う。	○　間や声の大きさ、読む速さなどに気をつけて音読させる。
（Ａ―１） (1)　「よびました」「こたえました」の言葉の違いについて話し合う。 ・よびました　　子ども達がよんだ ・こたえました　くじらぐもがへんじをした。まねではない。 (2)　高い台の上にのって「おうい」と音読しながら動作化する。 ・くじらぐも　高い台の上から　下向き ・子ども　　自分の席から　　上向き (3)　「ここへおいでよう。」のあとに続く言葉をくじらになって言う。 ・ぼくのせなかにのってあそぼうよ。 ・たびにつれていってあげるよ。 ・けしきがとてもいいんだよ。 ・だいじょうぶだよ。 ・こわくないからね。 (4)　吹き出しに書く。 (5)　吹き出しに書いたことを発表する。	（Ａ－１） ○　「こたえました。」の叙述に着目させ、くじらがまねをしているのではないことを捉えさせる。 ○　くじらと子ども達に分かれて音読，動作化させ，誘い合う動作の違いから，まねばかりしていたくじらの変化に気付かせる。 ○　「ここへおいでよう。」の「ここ」は，どこをさしているのかはっきりさせる。 ・子ども達　　運動場 ・くじらぐも　空 ○　教師が子ども役になって，くじらに話しかけ，なんとしても子ども達を空に誘いたいくじらの気持ちを引き出す。 ○　くじらぐもになって吹き出しに書かせる。
4　はりきる子ども達の様子を考える。	○　「よしきた」「男の子も女の子も」の言葉から，くじらの思いが，子ども達に通じたことを捉えさせる。
5　本時学習のまとめと次時学習の確認をする。 今日のがくしゅうで きょうのくじらさんはね，子どもたちともっとなかよくなりたいから，空へいっしょうけんめいにさそったんだね。	○　読み取ったことをもとに，「きょうのくじらさんはね，」の書き出しの後に続く言葉を考えさせ，おうちの人に伝えるように書かせる。

第８時

４　本時　（８／１１）

５　本時の目標

○　子ども達を応援するくじらと，それに応える子ども達の様子を捉え，子ども達と仲良くなりたいというくじらの気持ちを読み深めることができる。

６　本時学習における授業改善の観点

○（Ａ－１）場面の様子に気づき，想像を広げながら書かれている通りに読む力

・　「もっとたかく。もっとたかく。」と繰り返し応援するくじらの言葉に着目させ，音読や動作化を通して，「どうしても空へきてほしい。」というくじらの強い気持ちを読み取らせる。

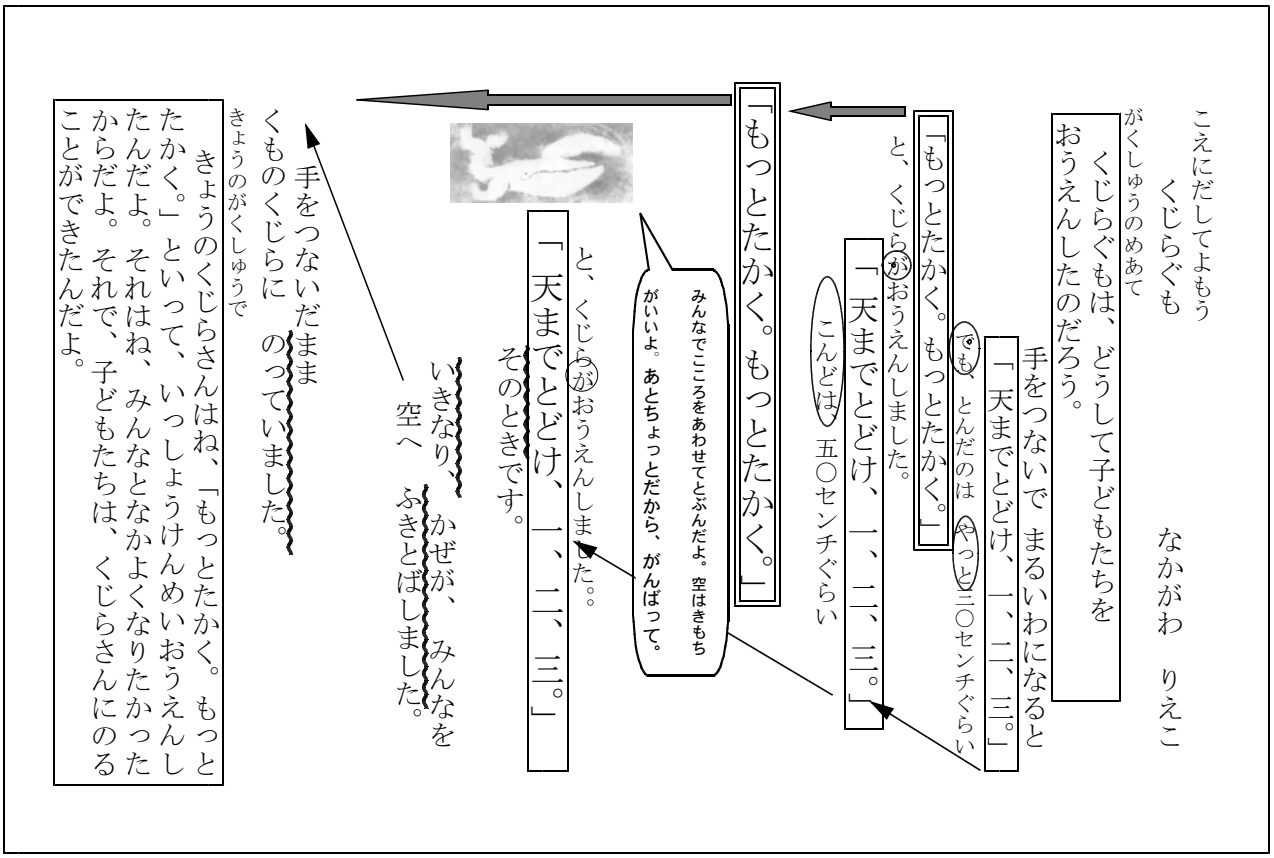
７　本時指導についての基本的な考え方

○　本時は，くじらに飛び乗るために「天までとどけ，一，二，三。」とがんばる子ども達の姿と，「もっとたかく。もっとたかく。」と子ども達を一生懸命応援するくじらの姿から，子ども達を応援するくじらの「どうしても来てほしい。」という強い気持ちを読み深める場面である。「やっと三十センチ」「こんどは，五十センチ」という叙述とつないで，飛び乗る難しさや，気持ちの高まりを感じ取らせることができる。そして，「もっとたかく。もっとたかく。」の繰り返しの言葉によるくじらの気持ちの高まりや，「くじらが」の叙述から，主体的になっているくじらの姿に気付かせることで、くじらの気持ちを読み深めることができると考える。

○　指導にあたっては，子ども達の言動を取り出し，くじらに飛び乗るために３回もジャンプしたことを押さえる。そして，「もっとたかく。もっとたかく。」と繰り返すくじらの言葉に着目して音読させ，一度目と二度目の読み方の違いから，くじらぐもの気持ちの高まりを読み取らせていくようにする。さらに，くじらと子ども達に分かれ音読，動作化したり，「もっとたかく。もっとたかく。」に続く言葉を吹き出しに書いたりすることを通して，子ども達を乗せたくて一生懸命応援するくじらの気持ちを捉えさせたい。

その後，「そのとき」「いきなり」「手をつないだまま」という言葉と挿し絵から，三度目のジャンプと同時に突然風が吹き，風の力も借りて，みんなでくじらに乗れたことを押さえる。さらにくじらに乗れたということは，離れていた子ども達とくじらの体が一緒になったということを，板書を用いて視覚的に捉えられるようにする。背中に乗れたときの子ども達の気持ちと，背中に乗せたくじらの気持ちをたずね，どちらも願いがかなってうれしい気持ちであることを気付かせたい。

８　板書図



９　展開

学習活動と内容	指導上の留意点
１　前時の学習を想起し，本時学習のめあてをつかむ。 （１）前時の「おさそいくじら」の場面を想起し，本時は「おうえんくじら」の場面であることを確認する。 （２）本時のめあてを知る。	○　前時の学習のあしあとから，前時までの学習をふりかえらせる。
学習のめあて くじらぐもは，どうして子どもたちをおうえんしたのだろう。	
２　本時場面を音読する。	くじらと子ども達に分かれて音読させる。
３　くじらぐもが応援し，子ども達がくじらに飛び乗うとするところまでの様子を話し合う。 （１）ジャンプする子ども達と，応援するくじらの様を話し合う。 【くじらぐも】 「もっとたかく。もっとたかく。」 ⇩ 「もっとたかく。もっとたかく。」	くじらと子ども達の繰り返しの言葉にはカードの大きさを変えて用い，思いの変化が視覚的にとらえやすいようにする。
【子ども達】 「天までとどけ，一，二，三。」 ⇩やっと三十センチぐらい 「天までとどけ，一，二，三。」 ⇩こんどは五十センチぐらい 「天までとどけ，一，二，三。」	実際の高さを提示し，「でも 」や「やっと」の言葉とつなぎ，あまりとべなかったことを視覚的にとらえられるようにする。
（２）一度目の「もっとたかく。もっとたかく。」と二度目の「もっとたかく。もっとたかく。」のちがいを捉え，くじらの気持ちを話し合う。 （Ａ－１） ①音読の仕方のちがいについて考える。 ・声が大きくなる ・もっと呼びかけるように言う ・子ども達を乗せたいという気持ちが，一度目より強くなる。 ②くじら役と子ども役になって音読,動作化する。 ③二度目の「もっとたかく。もっとたかく。」の後に続く言葉を，ふき出しに書く。 ・みんなで気持ちを合わせて飛ぶんだよ。 ・もうちょっとだから，がんばって。 ・あとひといきだよ。ぜったいおいでよ。 ④吹き出しに書いたことを発表する。	（Ａ－１） ○　繰り返しの応援に着目し，空に来てほしいくじらの気持ちの高まりに気付かせる。 ○　二度目の方が，応援する気持ちが強くなっていることに気付かせる。 ○　くじら役の子は高いところに立って動作化させる。 ○　子ども達を背中に乗せたくて、一生懸命応援するくじらの気持ちを　ふくらませながら吹き出しに書かせる。 ○　発表したことを，教師は板書でまとめる。
４　風が吹いて子ども達がくじらに乗るまでの様子をし合う。 ・そのときです ・いきなり ・かぜが…ふきとばしました ・くものくじらにのっていました	「 そのときです」が，３回目のジャンプのときであることから，ジャンプと同時に風の力も借りて空へ舞い上がる様子を，挿し絵とつないで捉えられるようにする。 「 のっていました 」から板書を用いて，子ども達とくじらの体が一つになったことを捉えられるようにする。
５　本時学習のまとめと，次時学習の確認をする。 きょうの学習で きょうのくじらさんはね,「もっとたかく。もっとたかく。」といって，いっしょうけんめいおうえんしたんだよ。それはね，みんなとなかよくなりたかったからだよ。それで，子どもたちはくじらさんにのることができたんだよ。	読み取ったことをもとに，おうちの人に「 きょうのくじらさんはね,」の書き出しの後に続く言葉を考え，書かせる。